

議会運営委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和5年10月17日（火）～10月18日（水）

2. 参加者

委員長	宮永万里子
副委員長	澁木 茂
委員	塚田 義一
委員	都丸 裕史
委員	田邊 信雄
委員	青木 満
議長	渡邊 明
事務局長	村田 浩二
事務局	初谷 英之

3. 視察地 長野県木祖村
愛知県幸田町

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察結果 別紙のとおり

◎視察地 長野県木祖村議会（令和5年10月17日（火））

・視察内容 「議員のなり手不足の解消について」

〒399-6201 長野県木曾郡木祖村藪原 1191-1

- ・面積：140.50km²
- ・人口：2,599人（令和5年9月1日現在）
- ・人口密度：19人/km²（令和3年度財政状況資料集より）
- ・隣接自治体：松本市、塩尻市、木曾郡木曾町、東筑摩郡朝日村

○概要（木祖村HPより抜粋）

旧中山道の難所と言われた鳥居峠を境に、木祖村は戦国時代には武田氏と木曾氏の領地争いが続き、戦乱に巻き込まれた地でもあります。

江戸時代に徳川幕府が天下を支配した後は、村内藪原地区は旧中山道六十九宿の一つ「藪原宿」として栄えました。江戸時代の中頃（元禄十六年）より現在伝統工芸品として生産されている「お六櫛」の元祖である木櫛の生産がはじまったのもこの頃です。享保十二年、当時村内のそれぞれの人口は、藪原宿 1,162 人、藪原在郷 470 人、小木曾 589 人、菅 357 人で合計 2,578 人が住んでいたと記録に残っています。

明治時代に入り、明治7年には藪原村、荻曾村、菅村が合併し木祖村となりました。明治17年には藪原村、小木曾村、菅村に分村しましたが、明治22年再び合併し現在の木祖村となりました。

木曾谷に中央西線や国道19号線が開通し、木祖村でも主力産業の木工産業を中心に栄え、また昭和初期に開設された藪原スキー場は（現在やぶはら高原スキー場）には中京方面からの多くのお客さんが訪れ、観光産業も昭和初期より盛んにおこなわれています。現在では中央高地特有の気候を利用した高原野菜の生産も盛んにおこなわれています。

■木祖村議会 議員定数9人 現員数9人

- 議長 栗屋 正一（くりや しょういち）
- 副議長 安原 千佳世（やすはら ちかよ）
- 常任委員会
 - 厚生文教委員会 定数7人以内 現員数6人
 - 産業経済委員会 定数7人以内 現員数6人
- 議会運営委員会 定数4人 現員数4人

【まとめ】

山間地域の木祖村ですが、地域に密着した議員のなり手不足の解消のため、令和4年12月に、全村議10名が議会で進退表明を行い、早めの意思表示で欠員解消を図る取組を実施しました。

月額15万円という議員報酬の低さを考えると、この決断は理に適った妥当なものと思われます。しかし、我が大泉町議会においては、少なくとも議員のなり手不足の状況にはあらず、議員報酬も群馬県内の町村で最高額であることなどを考え合わせますと、全議員が議会で進退表明を行うには課題が多いというのが正直な感想でありました。

木祖村議会が実施した議員の進退表明は、有権者や立候補検討者への情報の一つとしてとても有効であります。反面、特に立候補検討者は現職の動向を気にせず、自身の考えや思いで立候補できる環境づくりが必要であると感じました。

また、進退表明を実施するにあたり、どの様な過程で議論されたのか、もう少し知りたいと感じました。

◎視察地 愛知県幸田町議会（令和5年10月18日（水））

・視察内容 「議員のなり手不足の解消について」

〒444-0192 愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1番地1

- ・面積：56.72k㎡
- ・人口：42,247人（令和5年9月1日現在）
- ・人口密度：745人/k㎡（人口÷面積）
- ・隣接自治体：岡崎市、西尾市、蒲郡市など

○概要（幸田町HPより抜粋）

幸田町は愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市などと接しています。東西10.25km、南北10.55kmで面積は56.72k平方メートルです。

東部の遠望峰山の439mを最高に東部と南西部に100m～400mの丘陵が続き、広田川を中心に平野が広がっています。

温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町です。

■幸田町議会 議員定数16人 現員数16人

- 議長 藤江 徹（ふじえ とおる）
- 副議長 鈴木 久夫（すずき ひさお）
- 常任委員会
 - 総務教育委員会 定数8人 現員数7人
 - 福祉産業建設委員会 定数8人 現員数8人
- 議会運営委員会 定数9人以内 現員数7人
- 議会広報特別委員会 定数8人 現員数8人

【まとめ】

議員定数16名、報酬30万円とほぼ大泉町議会と規模は似ており、自動車産業では同じ愛知県内の豊田市の恩恵を受けております。財政力も良く、議員のなり手不足は一般的に地域力の衰退など議会だけの力では対処できない要因も含む問題であり、住民課題の一つと強く感じました。

平成27年の統一地方選挙で初めて無投票となり、令和元年には1名の定員割れになってしまった状況であり、これらを受け、議員定数についてや議員報酬アップ等の検討課題が生じたことを確認しました。

議員定数や議員報酬については、群馬県町村議会議長会でも講師を招いて講演をして頂き、更に、全国町村議会議長会でも講師を招いて講演して頂いたことも説明しましたが、愛知県町村議会議長会での議員報酬アップの講演は未だなされていない状況でありました。将来都市像では人口減少が近づいているため、真剣に協議し地域住民を参画させ意見を聞くことで、議会の活性化が必要と感じました。

また、当時の議長の提案により、議会広報紙に立候補に必要な手続きや準備の仕方などを分かり易く紹介した「なり手不足解消」の特集記事を7回にわたり掲載するなど、画期的な取組を実施しておりました。その結果、令和5年4月の町議会議員選挙では、議員定数16人に22人が立候補し選挙に至ったそうです。とは言え、「落選のリスクが大きすぎる」など、まだまだ課題は多いとの説明者の認識には全く同感ではありますが、何事によらず、「求めよ、されば与えられん」という言葉の通り、真剣に追求し行動すれば必ず結果は現れるものだと改めて実感しました。

議員定数や議員報酬等についての意見では、議員それぞれの考えがあり、纏めるのは相当難しいのではないかとの印象も受けましたが、何より町民の意見をどの様に反映させていくのかが大切だと感じました。

また、終了後に幸田町議会からの質問事項もあったという事で、大泉町議会側の一方的な質問だけではなく、幸田町議会側の質問も聞き双方にとってメリットのある研修にする必要があったと感じました。